



漁業者のための ニュージーランド海鳥ガイド



環境保全省
Department of Conservation
Te Papa Atawhai

当早見ガイドはニュージーランド経済水域で見られる26種類の海鳥を掲載しています。ニュージーランド沿岸で観察できるものもありますが、大多数は外洋で採餌する姿が見られるものです。

掲載する海鳥のほとんどはニュージーランドで繁殖し、その多くが同国を唯一の繁殖地としています。実際ニュージーランドの海は、ここで繁殖する86種を始め多種多様な海鳥が生息しているため、「世界の海鳥首都」と考えられています。ニュージーランドの海鳥にはペンギン、アホウドリ、ミズナギドリ、ウ、カツオドリ、アジサシ、トウゾクカモメなどがいます。

当ガイドでは漁業中に捕獲される危険性のある海鳥を選びました。掲載する海鳥のほとんどが長距離を移動するため、操業中の漁船との遭遇、汚染、餌の枯渇など、海上で様々な危機にさらされます。それに加え、これらの海鳥は繁殖地でも異なる窮地に立たされることが多々あります。

ニュージーランドの一部の漁業者は海鳥の偶発的捕獲を軽減する措置を導入しています。個人、組織、また政府レベルで海鳥保護の動きが多数出ており、世界各地で同様の措置が採られています。当ガイドに掲載した海鳥の多くは個体数が非常に少なく、個人が種の保存に重要な役割を担っています。つまり、海鳥の偶発的捕獲を減らそうとする漁業者の協力が不可欠なのです。

注意：海鳥への被害は数カ国の経済水域だけでなく、公海でも起こるため、IUCN（国際自然保護連合）の絶滅危惧種レッドリストを使用しました。



当ガイド掲載の海鳥一覧

アホウドリ科大型アホウドリ属

アンティポディーズ（ワタリ）アホウドリ
及びオークランドワタリアホウドリ
Diomedea antipodensis antipodensis and
D. antipodensis gibsoni

キタシロアホウドリ
Diomedea sanfordi

ミナミシロアホウドリ
Diomedea epomophora

アホウドリ科暗色アホウドリ属

ハイイロアホウドリ
Phoebastria palpebrata

アホウドリ科南大洋中型アホウドリ属

ニュージーランドアホウドリ
Thalassarche bulleri

キャンベルアホウドリ
Thalassarche impavida

チャタムアホウドリ
Thalassarche eremita

ハイガシラアホウドリ
Thalassarche chrysostoma

サルビンアホウドリ
Thalassarche salvini

マユグロアホウドリ
Thalassarche melanophrys

オークランドハジロアホウドリ
Thalassarche steadi

ミズナギドリ科、ウミツバメ科、 モグリウミツバメ科

キタオオフルマカモメ
Macronectes halli

オオフルマカモメ
Macronectes giganteus

オオハイイロミズナギドリ
Procellaria cinerea

ウエストランドクロミズナギドリ
Procellaria westlandica

ノドジロクロミズナギドリ
Procellaria aequinoctialis

クロミズナギドリ
Procellaria parkinsoni

モグリウミツバメ
Pelecanoides urinatrix

ハネナガミズナギドリ
Pterodroma macroptera

マダラフルマカモメ
Daption capense

ミズナギドリ科ミズナギドリ属

ミナミオナガミズナギドリ
Puffinus bulleri

アカアシミズナギドリ
Puffinus carneipes

ハシボソミズナギドリ
Puffinus tenuirostris

ハイイロミズナギドリ
(別名ティティまたはマトンバード)
Puffinus griseus

オナガミズナギドリ
Puffinus pacificus

ミズナギドリ科クジラドリ属

ヒメクジラドリ
Pachyptila turtur



アンティポディーズ（ワタリ）アホウドリ及びオークランドワタリアホウドリ (Antipodean wandering albatross and Gibson's albatross)

Diomedea antipodensis antipodensis and *D. antipodensis gibsoni*



写真：CJRロバートソン



写真：トワイ・マ・ロイ

頭部：白色の顔と喉。茶色がかった頭頂部

胴体部：大型のアホウドリで成長するにつれて白くなるが、尾羽は暗色。雄の成鳥は白い胴体にいくらか茶色の斑点があるものが多い。雌の体は暗色のものが多い。

翼羽部：翼長は平均64cm。翼の表側は暗色のものからほぼ全体が白色のものまで。内側は白色で、先端が暗色。

くちばし：ピンク

幼鳥の特徴：茶褐色の羽毛。顔、喉、翼の内側は白色



採餌と分布

餌：イカ、時々魚

分布：オーストラリアからチリまでの南太平洋に分布。オークランドアホウドリは南大洋で採餌します。アンティポディーズアホウドリの追跡調査の結果、抱卵期は主にニュージーランドの東側で採餌することが分かっています。非繁殖期の雄には東に向かいチリ沖まで飛んでいくものもいます。抱卵初期のオークランドワタリアホウドリは主にニュージーランド東側とタスマン海で採餌すると考えられています。

面白い事実

この二種は遺伝子的に似ていますが、オークランドワタリアホウドリは通常アンティポディーズアホウドリより薄い色の羽毛を持っています。

繁殖

繁殖地：アンティポディーズアホウドリは、キャンベル島及びチャタム諸島（チャタム島、ピット島）で繁殖する一部のつがいを除き、アンティポディーズ島で繁殖を行います。オークランドワタリアホウドリはオークランド諸島（アダムス島、オークランド島、ディサポイントメント島）でのみ繁殖します。

繁殖期間：オークランドワタリアホウドリの産卵は12月、アンティポディーズアホウドリの産卵は1月～2月に始まります。ヒナは通常翌年1月～3月に巣立ちます。

産卵の頻度：繁殖に成功したつがいは隔年、失敗したつがいは毎年

卵数：1

営巣：巣間距離を大きく取った密度の低いコロニー（集団営巣地）に営巣します。タソックと大型草本の間に、カップ状に盛り上げた土で巣を築きます。

脅威

海上

- 漁船をよく追いかけているアンティポディーズとオークランドワタリアホウドリはいずれも延縄漁業で比較的頻繁に混獲されています。
- ニュージーランド領海では、ニュージーランド東側で操業するミナミクロマグロ漁業で頻繁に混獲されています。最近ではメカジキ漁業でも混獲されています。
- オークランドワタリアホウドリはオーストラリアのミナミクロマグロ漁業でも混獲されています。
- 同種は南太平洋とタスマン海の広範囲で採餌するため、公海における延縄漁業も脅威となります。

地上

現在、地上におけるアンティポディーズとオークランドワタリアホウドリへの脅威はほとんどありません。

- 一部のコロニーでは、天敵となる哺乳動物が卵や無防備のヒナを捕食することがあります。アダムス島、ディサポイントメント島、キャンベル島は移入哺乳動物が皆無です。
- アンティポディーズ島、アダムス島、ディサポイントメント島へのアクセスは限られています。また、キャンベル諸島及びオークランド諸島においてもコロニーを訪れる人はほとんどいないため、現在人間の影響は最小限に留まっています。

キタシロアホウドリ (Northern royal albatross)

Diomedea sanfordi



頭部：白色。一部の頭頂部に暗色の斑点

胴体部：非常に大型で、胴体と背部が白色

翼羽部：翼の表側全体が暗色

足部：ピンク

くちばし：薄桃色で、先端に黒色の細い線

幼鳥の特徴：幼鳥は成鳥に似ていますが、頭頂部と背部に暗色の斑点があるものもいます。



採餌と分布

餌：主にイカ、いくらかの魚

分布：タスマン海、太平洋、南大西洋の広域で採餌

面白い事実

オタゴ半島タイアロア岬にあるキタシロアホウドリのコロニーはニュージーランド本土唯一のアホウドリコロニーです。

シロアホウドリの寿命は通常35年ほどですが、タイアロア岬で最初に産卵した個体の一羽で「おばあちゃん」と呼ばれる個体は60代前半で最後のヒナを育てました。2007年1月、トロアはタイアロア岬でかえった500羽目のヒナで、「おばあちゃん」の孫に当たります。

繁殖

繁殖地：チャタム諸島（フォーティ
ーフォーズ諸島、ビッグシスター
島、リトルシスター島）、南島（タイ
アロア岬）、オークランド諸島（エン
ダービー島。ここでは一部がミナミ
シロアホウドリと交配）

繁殖期間：産卵は10月下旬に始ま
り、ヒナは翌年8月から10月に巣立
ちます。

産卵の頻度：繁殖に成功したつがい
は隔年

卵数：1

足部：キタシロアホウドリのコロニー
は他種の大型アホウドリのものよ
り密度が高く、土や植物を積み上げ
て巣を築きます。

脅威

海上

- 成鳥と幼鳥の生存率が高いことから漁業による混獲がこの種に大きな脅威を与えていないと考えられますが、一部の個体は延縄及びトロール漁で捕獲されています。

地上

- 最近までチャタム諸島のコロニーでは環境の変化がキタシロアホウドリの個体数に重大な影響を与えていましたが、今では従来の生息環境が回復しています。
- タイアロア岬では天敵となる哺乳動物がヒナを捕食した年もありました。

近年では重点的な害獣駆除が行われ、これらの捕食動物の被害は最小限に抑えられています。他の全コロニーには天敵となる哺乳動物はいません。

- タイアロア岬では、肉や傷口に産卵する移入種のクロバエ (*Lucilia sericata*) によるウジの発生や高い気温によるストレスから卵やヒナが死んでいます。特に暖かい年は成鳥が熱射病やおそらく鳥痘にかかって死亡しました。

ミナミシロアホウドリ (Southern royal albatross)

Diomedea epomophora



写真：ピーター・リース



写真：ピーター・モーア

頭部：通常白色。一部の頭頂部に暗色の斑点

胴体部：非常に大型のアホウドリで、体は白色。成鳥の尾羽は全体的に白色。完全に成長するとアホウドリ全種の中で最も白くなります。

翼羽部：翼の表側は白色で、数本の黒色のすじ。成長とともに翼の表側が白さを増します。

足部：薄桃色

くちばし：ピンクで、上嘴下部に細い黒色の線



採餌と分布

餌：主にイカといくらかの魚

分布：繁殖期はタスマン海と南太平洋で採餌します。繁殖期が終わると、南大西洋に渡り、南大洋で周極的に分布すると考えられます。

面白い事実

ミナミシロアホウドリとワタリアホウドリはアホウドリ全種の中でも最大級です。

繁殖

繁殖地：主にキャンベル島。一部がオークランド諸島（アダムス島、エnderビー島、オークランド島）と南島（タイアロア岬—ここではカタシロアホウドリと交配）

繁殖期間：産卵は11月下旬～12月下旬。産卵後はつがい交代で抱卵します。卵は約79日で孵化（1月～3月）。1ヶ月間抱雛し、約240日で巣立ちます。

産卵の頻度：繁殖に成功したつがいは隔年

卵数：1

営巣：土と植物の山

脅威

海上

- 延縄漁業がある程度の脅威となります。
- ニュージーランド経済水域のミナミクロマグロ延縄漁業で少数が混獲されています。
- 世界的に見ると、夏にオーストラリア南西沖、夏と冬にはタスマニア沖のマグロ延縄漁業で混獲されています。
- 外洋域では日本のマグロ延縄漁船にも混獲されています。
- トロール網とその引き綱やケーブルへの羅網が目撃されることがあります。

地上

- トウゾクカモメが天敵で、卵を捕食します。
- オークランド島では野生のブタが卵や無防備のヒナを捕食する可能性があります。
- ミナミシロアホウドリの生息環境への潜在的脅威は、気候変動によるドラコフィラムという低木の減少でしょう。
- 観光客が就巢中のミナミシロアホウドリに影響を与える可能性があります。神経過敏なこの海鳥は近寄られたり、触られたりした巣を放棄することで知られています。ミナミシロアホウドリ繁殖期には、環境保全省が島での観光客の立ち入り区域を制限及び管理する方策を多数実施しています。



ハイイロアホウドリ (Light-mantled sooty albatross)

Phoebastria palpebrata



写真：環境保全省



写真：トニー・メーソン

頭部：すすけた茶色で、目の脇に白色の三日月模様

胴体部：ハイイロアホウドリ属は最も小型のアホウドリの一つ。灰色で、腹部は暗灰色

翼羽部：色はすすけた茶色で、平均翼開長200cm

足部：灰色

くちばし：暗色で、くちばしの合わせ目に薄青色の線



採餌と分布

餌：主に魚といくらかのイカ

分布：深い沖合の海を好み、夏は気温の低い南極の叢氷域まで南下し採餌し、冬には温帯から亜熱帯海域にまで渡ります。繁殖期には繁殖地から数千キロ飛んで採餌します。

面白い事実

他のアホウドリと違い、ハイイロアホウドリ属は硬く長いV字型の尾を持ち、求愛合戦の際、機敏な動きに役立つと考えられています。

繁殖

繁殖地：オークランド諸島（アダムス島、ディサポイントメント島、オークランド島、エンダービー島、ローズ島）、キャンベル諸島（キャンベル島、デント島、ジャクマール島、フォリー島、モノワイ島、その他沿岸の離れ岩）、アンティポディーズ諸島（アンティポディーズ島、ボロンズ島、アーチウェイ島、リーワード島）。ニュージーランド以外では、マクオーリー島、ハード島、ケルゲレン諸島、クローゼー諸島、プリンスエドワード諸島、マリオン島、サウスジョージア島でも繁殖します。

繁殖期間：10月下旬に始まり、ヒナが巣立つのは翌年5月～6月

産卵の頻度：繁殖に成功したつがいは隔年

卵数：1

営巣：他種のアホウドリに比べコロニー性が弱く、単独で営巣するつがいもいます。主に崖の岩棚に円錐状の巣を築きます。

脅威

海上

- ・ 海上での主な脅威は延縄漁業です。
- ・ 最近ニュージーランドではこの種の捕獲は報告されていません。
- ・ オーストラリアのマグロ延縄漁業で少数が混獲されています。
- ・ 日本人科学者はこの種が特にインド洋と太平洋南西部の外洋域で頻繁に混獲されていると報告しています。

地上

- ・ オークランド島では天敵となる哺乳動物が卵やヒナを捕食する可能性があります。ほとんどが崖の岩棚に営巣するため、これらの捕食動物から守られています。
- ・ 地上で最も問題となる天敵はおそ

らくチャイロオトウヅクカモメでしょう。この天敵は卵を奪うだけでなく、巣から親鳥を追い払う場面も目撃されています。

- ・ 人間の訪問もいくらか影響を与えるかもしれません。この種は求愛中の妨害に敏感です。抱卵初期に触られると巣を放棄することもあります。ニュージーランドではコロニーへの訪問者がほぼ皆無のため、大きな問題ではありません。
- ・ アンティポディーズ及びオークランド諸島ではマダニやネズミが鳥類病菌の潜在的媒体となる可能性があります。

ニュージーランドアホウドリ (Buller's albatross)

Thalassarche bulleri



写真：トウイ・デ・ロイ



写真：トウイ・デ・ロイ

頭部：頭と首が灰色で、頭頂部が白色

胴体部：胴体が白色で、尾羽上部は暗色

翼羽部：翼表側が暗色、内側は白色に黒い縁

くちばし：暗色。上嘴部と下嘴部に鮮やかな幅広の黄色い線があり、上嘴部の線はくちばしの付け根で丸まっています。



採餌と分布

餌：主に魚、イカ、タコ、ホヤ、甲殻類

分布：繁殖期及び非繁殖期の成鳥はいずれもタスマン海、ニュージーランド南島以東の太平洋、及びスチュワート島以南の大陸棚域で採餌します。幼鳥と非繁殖期の成鳥は南極収束線以北の南太平洋全域に分布し、チリ及びペルー沖のフンボルト海流にまで達します。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドのスネアーズ諸島、ソランダー諸島、チャタム諸島、スリーキングス諸島でのみ繁殖します。

繁殖期間：チャタム諸島では10月～翌年5月、他のコロニーでは12月～9月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：細い段地または森の中の低木の隙間に台座型の巣を作ります。

脅威

海上

- この種にとっての大きな脅威は餌の分布に影響をもたらしている気候変動でしょう。
- ニュージーランド領海におけるこの種の偶発的捕獲は延縄及びトロール漁業の双方で発生しています。また、オーストラリアを含む諸外国領海及び公海においても延縄漁業での混獲が報告されています。

地上

- 地上での脅威はほとんどありません。
- コバネクイナがビッグソランダー島に移入したため、同島での繁殖成功率に影響が出るかもしれません。
- 鳥類病がこの種にとっての潜在的脅威といえるでしょう。

面白い事実

繁殖後、成鳥と幼鳥の多くはペルー及びチリ海域に渡り、幼鳥はそこに最大5年間残ることがあります。



キャンベルアホウドリ (Campbell albatross)

Thalassarche impavida



写真：トウイ・デ・ロイ、ローヴィング・トータス・フォト



写真：トウイ・デ・ロイ、ローヴィング・トータス・フォト

頭部：白色。眉は黒色で、眼球の虹彩はハチミツ色

胴体部：中型で体は白色

翼羽部：翼の表側は暗色。裏側は白色で黒い縁

足部：青味がかった白色

くちばし：黄色で先端が赤色

幼鳥の特徴：暗色のくちばしで黒っぽい先端。首の付け根の羽毛は灰色。目の色は最初茶褐色のため、マユグロアホウドリの幼鳥と間違いやすいでしょう。



採餌と分布

餌：主に魚、イカ、甲殻類

分布：南大洋全域から、南大西洋、インド洋、南太平洋の温帯海域にまで広く分布しています。

繁殖

繁殖地：唯一キャンベル島で繁殖

繁殖期間：8月～翌年4月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニー性を示し、崖や急な傾斜に営巣。踏み固められた土で台座型の巣を築きます。

脅威

海上

- ニュージーランドとオーストラリアのミナミクロマグロ漁業で多数混獲されています。
- 成鳥、幼鳥共に混獲されており、幼鳥の混獲死亡数の多さはコロニーの個体増過率に影響を与えていると思われます。
- ニュージーランドのトロール漁業でも混獲されています。

地上

地上での脅威はほとんどありません。

- 人間の訪問が若干の影響を及ぼすかもしれませんが、キャンベル島北端のコロニーを訪れる人はほとんどいません。
- 鳥類病が脅威となりえます。

面白い事実

この種は長い間マングロアホウドリのニュージーランド亜種の一つと考えられていましたが、現在では異なる2種がキャンベル島のコロニーで一緒に繁殖していることが分かっています。交配種もいくらか見つかっていますが、同種とつがうのを好むようです。



チャタムアホウドリ (Chatham albatross)

Thalassarche eremita



頭部：成鳥は頭頂部、顔、喉が灰色

胴体部：中型。胸部と腹部が白色で、尾羽が暗灰色

翼羽部：翼の表側は暗灰色で、内側が白色

くちばし：黄色のくちばしで、下嘴部の先端に暗色の斑紋

幼鳥の特徴：幼鳥の羽毛はより濃い色。くちばしは青灰色で先端が黒色



採餌と分布

餌：イカと魚

分布：西はタスマン海から東は南米までの南太平洋に分布。冬はチリ及びペルー領海に渡り、幼鳥は性成熟するまで南米の海に残ります。



繁殖

繁殖地：チャタムアホウドリは「ピラミッド」と呼ばれるチャタム諸島の大きな孤立岩の島でのみ繁殖します。

繁殖期間：8月、9月～翌年3月、4月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニー性を示し、鳥糞石と魚の骨を使って台座型の巣を作ります。



脅威

海上

- チャタムアホウドリはニュージーランド、オーストラリア、南米海域の延縄漁業で混獲されています。
- チリ及びペルー沿岸の延縄漁業は特に問題があり、同種に大きな脅威を与える可能性があります。
- ニュージーランド領海でもトロール漁業で付随漁獲物に混じっていることが報告されています。

地上

- 1985年の猛烈な嵐で島の生息環境の質が低下しましたが、以後回復しています。
- 土壌の減少と島の乾燥が卵とヒナの死亡率上昇に繋がったかもしれません。
- 「ピラミッド」は私有地で、チャタムアホウドリのヒナの不法捕獲が時折行われていると思われます。
- 鳥痘を含む鳥類病にかかる恐れがあります。

面白い事実

この種はニュージーランド固有のアホウドリの中で最も希少な種です。世界の総個体数が10ヘクタールのたった一つの孤立岩で繁殖しているのです。



ハイガシラアホウドリ (Grey-headed albatross)

Thalassarche chrysostoma



写真：A. ライト



写真：A. ライト

頭部：灰色の首と頭

胴体部：中型。成鳥の体は白色で、尾羽の表側は暗灰色

翼羽部：翼の表側は暗灰色で、内側は白色に黒い縁。翼開長200cm

くちばし：暗色のくちばしで、天辺と底部に黄色の線。天辺の線はくちばしの付け根で少しずつ先細になっています。



採餌と分布

餌：魚、イカ、甲殻類。育雛期にはヤツメウナギも主要な栄養源になっているようです。

分布：周極的に分布し、大陸棚域より外洋域を好んで採餌します。繁殖期の成鳥は繁殖地から寒帯前線まで最大2000kmも移動して採餌すると知られています。

面白い事実

この種の総個体数は60万羽と推定されていますが、モニターされている全個体群で個体数が急減しています。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、このアホウドリは唯一キャンベル島で繁殖します。南半球の他の地域では、ディエゴ・ラミレス島（ホーン岬）、サウスジョージア島、プリンスエドワード諸島、クローゼー諸島、ケルゲレン諸島、マクオーリー島で繁殖します。

繁殖期間：8月に始まり、9月下旬に産卵。翌年5月に終了

産卵の頻度：繁殖に成功したつがいは隔年

卵数：1

営巣：泥で作った円錐形の巣に植物を敷きます。

脅威

海上

- 海にすむ餌の分布に影響を与える気候変動が大きな脅威となる可能性があります。
- もう一つの大きな脅威が延縄漁業です。この種は大陸棚域から離れた外洋域で採餌するため、ニュージーランド経済水域における延縄漁業では極わずかしか混獲されていません。ハイガシラアホウドリの幼鳥の多くは特にオーストラリア沖の外洋域、インド洋、南大西洋のミナミクロマグロ延縄漁業で混獲されています。

地上

ハイガシラアホウドリにとって地上での脅威はほとんどありません。

- 地上での最も大きな脅威は、卵や弱いヒナを捕食する天敵のチャイロオトウソクカモメです。アホウドリコロニーの密度や大きさが縮小すると、この天敵が個体群に与える悪影響は益々大きくなるでしょう。
- 抱卵中に巣が触られるとそれを放棄することで知られていますが、キャンベル島のコロニーを訪れる人はほとんどいません。
- 鳥類病が脅威となりえます。



サルビンアホウドリ (Salvin's albatross)

Thalassarche salvini



写真：トゥイ・デ・ロイ



写真：トゥイ・デ・ロイ

頭部：薄灰色から茶色で、頭頂部は白色

胴体部：中型で、体の大部分が白色

翼羽部：翼の表側が暗色で、首の近くにはいくつかの白い斑点。内側は主に白色で細い黒の縁取り

くちばし：暗灰色または薄茶色。底面、先端、側面に黄色の斑点



採餌と分布

餌：イカと魚

分布：南大洋に広く分布し、南太平洋とインド洋でも観察されます。大陸棚や海山の海上で頻繁に採餌します。

面白い事実

世界の総個体数の95%がバウンティー諸島にある、いくつかの不毛の小島にぎゅうぎゅう詰めになって繁殖しています。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、バウンティー諸島、スネアーズ諸島、またおそらくチャタム諸島の「ピラミッド」やフォーティーフォース諸島でも毎年繁殖します。この種はインド洋のクローゼー諸島でも繁殖します。

繁殖期間：10月～翌年4月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：不毛な島や離れ岩に営巣

脅威

海上

- 漁船につきまとう姿がよく見られます。
- ニュージーランド経済水域では延縄漁業である程度のサルビンアホウドリが混獲されています。
- トロール漁業でもある程度の混獲が報告されています。
- 南大洋広域で採餌するため、外洋域での延縄漁業で危険にさらされる可能性があります。

地上

地上でのサルビンアホウドリへの脅威はほとんどありません。



マユグロアホウドリ (Black-browed albatross)

Thalassarche melanophrys



写真：トウイ・デ・ロイ、ローウィング・トータス・フォト



写真：トウイ・デ・ロイ、ローウィング・トータス・フォト

頭部：白色。目の周囲に黒色の斑紋があり、虹彩は黒色

胴体部：白色

翼羽部：表側は暗色で、内側は白色で黒色の縁。翼開長210～250 cm

足部：黄色がかったオレンジ色で水かきの付いた趾あしづめ

くちばし：鮮やかな黄色で先端が赤

幼鳥の特徴：幼鳥のくちばしは暗色で、黒っぽい先端



採餌と分布

餌：主にオキアミと魚。他にいくらかのイカ、サルパ、クラゲ

分布：夏はニュージーランド及びオーストラリア周辺の大陸棚域でよく見られます。冬にはインド洋にいた個体が東アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド沖の大陸棚域へと渡ります。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、キャンベル諸島、アンティポデーズ諸島、スネアーズ諸島で繁殖します。ニュージーランド以外では、ホーン岬、フォークランド諸島、サウスジョージア島、クローゼー諸島、ケルゲレン諸島、ハード島、マクオリー島で繁殖します。

繁殖期間：8月に始まり、9月下旬に産卵し、4月に終了

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニー性があり、沿岸のタソックに覆われた崖や急な斜面上の段地に営巣します。土、鳥糞石、植物を用い台座型の巣を作ります。

脅威

海上

- ・ トロール漁船の近くでよく見られます。毎年、多数のマユグロアホウドリが南アフリカ沖やインド洋のトロール漁業で殺されています。
- ・ また南半球の延縄漁業でも頻繁に混獲されています。
- ・ もう一つの脅威は海にすむ餌の分布に影響を与える気候変動でしょう。

地上

- ・ 一部の繁殖地には移入哺乳動物がいますが、ニュージーランドでは今のところ問題になっていません。
- ・ マダコと鳥類病
- ・ 一部の繁殖地では観光客の数が問題になっていますが、ニュージーランドでは今のところ大きな問題ではありません。

面白い事実

この種の総個体数は100万羽から250万羽と推定されており、南大洋に生息する他種のアホウドリの総数を上回ります。しかしながら、3世代（65年間）に渡り約65%の割合で急減しているため、絶滅危惧ⅠB類に分類されています。

この種は最近になってニュージーランドでもコロニーを作るようになりました。

オークランドハジロアホウドリ (White-capped albatross)

Thalassarche steadi



写真：CJR ロバートソン



写真：環境保全省

頭部：白色。頬がうっすらと灰色

胴体部：大型のアホウドリで、胸部、腹部、臀部が白色

翼羽部：翼の表側は暗色。内側は白色で、細い黒色の縁

くちばし：薄灰色がかった白色で、先端が黄色。上嘴底部付近に薄黄色の斑紋

追記：タスマニアで繁殖するタスマニアアホウドリ (*Thalassarche cauta*) に非常によく似ています。一部の研究者はオークランドハジロアホウドリ (訳注：英名white-capped albatross) をハジロアホウドリ (訳注：英名shy albatrosses) の現地種 (亜種) と考えています。



採餌と分布

餌：イカと魚

分布：繁殖期はスネアーズ諸島及びオークランド諸島の島棚域で採餌します。



繁殖

繁殖地：ニュージーランドのディサポイントメント島、アダムス島、オークランド島、ボロンズ島でのみ繁殖します。総個体数の96%（6万～7万2000つがい）がディサポイントメント島で繁殖しています。現在実施中の調査によると個体数はこの数を上回る見込みです。

繁殖期間：産卵は11月中旬に始まり、8月中旬にヒナが巣立ちます。

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニー性があり、土と植物を使い大きな堤型の巣を作ります。



脅威

海上

- ニュージーランドのイカ釣り漁業で頻繁に混獲されています。
- ニュージーランドのマグロ延縄漁業でも混獲が報告されています。
- 南アフリカ沖で操業されているマグロ延縄及びトロール漁業で頻繁に混獲されています。

地上

地上でのこの種への脅威はほとんどありません。

- オークランド島では天敵となる哺乳動物（特に野生のブタ）が巣を荒らし、卵やヒナを捕食します。

面白い事実

1907年3月7日、小麦を搭載した4本マストのバーク型帆船ダンドナルドがオークランド諸島のディサポイントメント島で座礁しました。難破の際12人が死亡し、残された15人は救助されるまでディサポイントメント島とオークランド島で9ヶ月を過ごしました。生存者の記録によると、生存者たちはこの苦難の間オークランドハジロアホウドリを1日最大5羽食べていたということです。



キタオオフルマカモメ (Northern giant petrel)

Macronectes halli



写真：トウイ・デ・ロイ、ローヴィング・ドータス・フォト



写真：トウイ・デ・ロイ

頭部：頭と首に白色の斑紋。成長するにつれ顔と顎が白くなります。

胴体部：胸に白色の斑紋。老いると上体が暗灰色のまだらになります。

翼羽部：翼開長150～200cm

くちばし：薄桃色で先端が赤茶色。キタオオフルマカモメとミナミオオフルマカモメを見分けるポイントの一つはくちばしで、キタオオフルマカモメは先端がピンクがかった茶色で、ミナミオオフルマカモメは緑がかった色です。

幼鳥の特徴：全体的に黒褐色で、薄色のくちばし



採餌と分布

餌：イカ。この目敏い海鳥は死んだアザラシやクジラの周りで頻繁に拾い食します。また、より小さな種の海鳥を襲って食べることで知られています。

分布：主に南極収束線以北の南大洋に広く分布します。キタオオフルマカモメはミナミオオフルマカモメほど沿岸から離れずに採餌します。成鳥の多くは通年繁殖地付近にいますが、幼鳥は南極を一周してくるようです。



繁殖

繁殖地：オークランド諸島（エンダービー島、ユーイング島、オーシャン島、ディサポイントメント島）、キャンベル諸島、アンティポディーズ島、チャタム諸島（フォーティフォーズ諸島、ビッグシスター島、リトルシスター島）。ニュージーランド以外では、マクオーリー島、ケルゲレン諸島、クローゼー諸島、プリンスエドワード諸島、サウスジョージア島で繁殖します。

繁殖期間：コロニーにより若干異なり、8月、9月、10月～2月、3月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニー性が弱く、つがいが散在して繁殖します。岩だらけの土地で植物の隙間に巣を作ります。



脅威

海上

- いくらかのキタオオフルマカモメがオーストラリアとニュージーランドのミナミクロマグロ延縄漁業で混獲されています。
- トロール漁船が網を引き揚げる際、近寄ってきて羅網することがあります。
- キタオオフルマカモメは拾い食い食性を持つため、他種の海鳥に比べ、ビニール呑み込みの危険性が高いといえるでしょう。

地上

現在、地上でのキタオオフルマカモメへの脅威はほとんどありません。

- キタオオフルマカモメは人為的干渉にかなり敏感で、近距離まで近寄られると卵や幼いヒナを放棄することがあります。

面白い事実

オオフルマカモメは「ネリー（女々しい）」とか「スティンクポット（臭いやつ）」とも呼ばれています。キタオオフルマカモメはミナミオオフルマカモメより希少ですが、ニュージーランド領海ではより頻繁に見られます。

オオフルマカモメはミズナギドリ科の海鳥の中で唯一地上で採餌する種です。



ミナミオオフルマカモメ (Southern giant petrel)

Macronectes giganteus



写真：デニス・ブルマン・フォトグラフィー



写真：トウイ・デ・ロイ、ローウィング・トータス・フォト

頭部：まったく異なる色の時期が2回あります：暗色で、首と頭に白い小斑点のある時期と若干の暗色の羽を除いて頭と首が完全に白くなる時期です。

胴体部：暗色期はキタオオフルマカモメと間違いやすいですが、ミナミオオフルマカモメの成鳥は首と下腹部がより薄い色です。白い時期の鳥は暗色の羽が所々にある以外、白色です。

翼羽部：翼開長150～200cm

くちばし：薄桃色で、緑がかった先端

幼鳥の特徴：羽毛が生え揃う時は黒色で、成長するにつれ徐々に色が薄くなります。成鳥の羽毛に換羽するのに7年かかります。



採餌と分布

餌：イカ。目敏い性質のため、キタオオフルマカモメに混じっていたり、死んだアザラシやクジラの近くで拾い食いしたりしています。より小さな海鳥を襲って食べることも知られています。

分布：親鳥はコロニー付近で夏を過ごします。冬は南極海域に残るものと、北上して南大洋広域に分散するものがあります。

繁殖

繁殖地：氷のない南極圏及び亜南極圏の島々にある小規模のコロニーに営巣します。ニュージーランドにも渡って来ますが、繁殖は行いません。

繁殖期間：北部のコロニーでは9月～3月、南極では11月～5月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：よくペンギンのコロニー付近に小規模なコロニーを作っています。

脅威

海上

- ミナミクロマグロ延縄漁業でいくらか混獲されています。
- 南大洋での不法且つ無規制のマジェランアイナメ延縄漁業が特に問題です。

地上

- 人為的干渉に非常に敏感で、近寄られると巣を放棄することで知られています。

面白い事実

ミズナギドリ類は危険を感じると異臭を放つ油を吐き出すことがあります。この匂いのため、ミナミオオフルマカモメは「臭いやつ」と呼ばれることがあります。



オオハイイロミズナギドリ (Grey petrel)

Procellaria cinerea



写真：デニス・フルマン・フォトグラフィー



写真：トゥイ・デ・ロイ、ローウィング・トータス・フォト

頭部：灰色で、頭頂部は暗灰色

胴体部：大型で灰色。上体は暗灰色で、腹部は白色。尾羽は灰色でV字型

翼羽部：翼の表側は灰色、内側はより暗灰色

足部：灰色がかったピンク

くちばし：黄色または緑がかった淡い白色。暗紫色の斑紋



採餌と分布

餌：イカ、魚、甲殻類

分布：周極的に採餌し、水深のある海盆を好みます。繁殖地のある島付近また秋のアルゼンチン沖以外では大陸棚域を避けます。

面白い事実

オオハイイロミズナギドリは優れた潜水能力を持ち、10mも潜って活餌を捕まえることができます。

2001年に環境保全省が実施したネズミ撲滅プログラムが功を奏し、最近キャンベル島で繁殖しているオオハイイロミズナギドリが再発見されました。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、キャンベル島とアンティポディーズ諸島で繁殖します。ニュージーランド以外では、ケルゲレン諸島、アムステルダム島、クローゼー諸島、プリンスエドワード諸島、トリスタン・ダ・クーニャ諸島、ゴフ島でも繁殖します。

繁殖期間：3月～11月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーに営巣します。

脅威

海上

- ・ オオハイイロミズナギドリは優れた潜水能力を持ち、特にマグロ及びタラ延縄漁業で使われる釣り餌を捕ろうと深く潜る姿が見られています。
- ・ ニュージーランド経済水域のマグロ延縄漁業で殺される海鳥の中では、オオハイイロミズナギドリが最大の割合を占めています。
- ・ 亜南極圏のフランス領の島々近くで操業するマジェランアイナメ延縄漁業で頻繁に混獲されています。
- ・ オオハイイロミズナギドリはトロール漁船を追いかけてながら拾い食いすることが多く、偶発的捕獲が時々報告されます。

地上

- ・ マクオーリー島とクローゼー諸島では野生のネコやネズミによってオオハイイロミズナギドリが全滅しました。同様にアムステルダム島、マリオン島、ポゼッション諸島、キャンベル諸島でも個体数が減少しています。



ウェストランドクロミズナギドリ (Westland petrel)

Procellaria westlandica



写真：クレイグ・ロバートソン



写真：ロッド・モリス

頭部：黒色

胴体部：大型で黒色のミズナギドリで、ノドジロクロミズナギドリに似ています。

翼羽部：黒色

足部：黒色の脚と趾あしゆび

くちばし：成鳥のくちばしは薄黄色で、先端部が大きく黒色



採餌と分布

餌：主に魚とイカ。特に育雛中は臍物を重要な栄養源としていることが知られています。

分布：遠洋性が非常に高く、ウェストランドクロミズナギドリの海上移動の範囲はタスマニアからチリ領海にまで及びます。繁殖期(3月～11月)にはニュージーランドの陸棚域やタスマン海で見られます。11月から4月は太平洋広域に分布し、成鳥はケープホーンへと南下し、若鳥はハンボルト海流へと北上します。

繁殖

繁殖地：この種は唯一ニュージーランドで繁殖します。繁殖地は南島ウェストコーストのプナカイキ近くの沿岸丘陵地

繁殖期間：毎冬、5月～11月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーに営巣します。

脅威

海上

- ウェストランドクロミズナギドリはニュージーランドとオーストラリアのマグロ漁業で付随的に捕獲されています。
- 頻繁にトロール漁船を追いかけるので、トロール装置に掛かる可能性があります。

地上

- 移入哺乳動物が時に卵やヒナだけでなく成鳥も襲います。

- 鉱山業や農業がコロニーに隣接する生息環境の一部を破壊しました。
- コロニーに出入りする際、電線にぶつかることがあります。
- ニュージーランド固有のコバネクイナが天敵です。近年、他の餌が減少したため、ミズナギドリのヒナが格好の餌食となっています。

面白い事実

環境保全省が実施した害獣駆除策はウェストランドクロミズナギドリの個体数の安定に役立ちました。パパロア国立公園内のコロニーは一般のアクセスを制限する「ウェストランドクロミズナギドリ特別区域」として保護されています。



ノジロクロミズナギドリ (White-chinned petrel)

Procellaria aequinoctialis

写真：ダレン・スコット



写真：ダレン・スコット

頭部：黒褐色。海上では観察しにくいものの、くちばしの下に若干白い羽があります。

胴体部：黒褐色の大型ミズナギドリで、ウェストランドクロミズナギドリに似ています。

翼羽部：黒褐色

足部：脚と趾あしゆびは黒色

くちばし：薄黄色。ウェストランドクロミズナギドリとの明確な相違点は、ノジロクロミズナギドリのくちばしの先端が暗色でないことです。



採餌と分布

餌：主にオキアミと魚

分布：熱帯から南極海域まで南大洋域で採餌します。海盆域と大陸棚域のいずれでも採餌する珍しい種です。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、毎年オークランド諸島、キャンベル諸島、アンティポディーズ諸島のコロニーで繁殖します。ニュージーランド以外では、ケルゲレン諸島、クローゼー諸島、プリンスエドワード諸島、マリオン島、サウスジョージア島、フォークランド諸島で繁殖します。

繁殖期間：11月～5月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーに営巣します。

脅威

海上

- ・ ノドジロクロミズナギドリは潜水能力に優れているため、漁業による危険性が非常に高く、南半球各地で付随的に捕獲されています。
- ・ この種は日夜を問わず釣り餌を奪おうとします。
- ・ おそらく南大西洋、南アフリカ沖、西インド洋の延縄漁業で最も頻繁に殺されている種でしょう。
- ・ 延縄漁船やトロール漁船に群がることで知られています。ニュージー

ーランド内外で、いずれの漁法を用いた漁業でも偶発的に捕獲されています。

地上

- ・ 一部のコロニーで移入哺乳動物が脅威となっています。
- ・ 訪問者が誤って巣穴を踏み潰すなど、人間がもたらす被害が問題になっています。

面白い事実

昔のアザラシ猟師は、ノドジロクロミズナギドリが巣穴で立てる物音や鳴き声から、この海鳥を「靴屋」と呼んでいました。ノドジロクロミズナギドリは巣穴を掘るミズナギドリの最大種です。

クロミズナギドリ (Black petrel)

Procellaria parkinsoni



写真：デイヴィッド・ウェイツ



写真：テリー・グリーン

頭部：暗色

胴体部：中型。非常に濃い茶褐色または黒色

翼羽部：茶褐色または黒色

足部：黒色

くちばし：薄黄色で先端が暗色

追記：クロミズナギドリはウェストランドクロミズナギドリに非常に似ていますが、サイズがより小型です。また、ニュージーランド北島沖をウェストランドクロミズナギドリよりもさらに北及び北東方面へと移動します。パーキンソンミズナギドリとも呼ばれます。



採餌と分布

餌：魚と甲殻類

分布：クロミズナギドリは主にニュージーランド北島東部沖とタスマン海で採餌します。繁殖を終えると東太平洋の熱帯海域に渡り、メキシコ南部とペルー北部間の沖合とさらに西のガラパゴス諸島で頻繁に見られます。

面白い事実

昔はニュージーランド北島と南島北西部の山岳及び丘陵地帯にクロミズナギドリのコロニーがありました。ほとんどが1950年代以前に消滅しました。

繁殖

繁殖地：この種のコロニーはリトルバリア島とグレートバリア島のみに残っています。

繁殖期間：11月～6月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーに営巣します。

脅威

海上

- クロミズナギドリは頻繁に漁船を追いかけて拾い食います。深く潜って釣り餌を奪おうとするため、特に延縄漁業で問題となっています。
- ニュージーランド近海で操業する延縄漁業（例えばゴウシュウマダイ漁業）やアマチュア釣り師にも捕獲されているらしいとの情報が入っています。
- 冬は東太平洋の熱帯海域の漁業も脅威となります。

地上

- この種は多数のコロニーで野生のネコや他の捕食動物により全滅しました。リトルバリア島では野生のネコを駆除したため、個体数の減少が抑えられています。
- グレートバリア島では天敵となる哺乳動物が卵を取ったり、ヒナや成鳥を殺したりする可能性があります。



モグリウミツバメ (Common diving petrel)

Pelecanoides urinatrix



写真：ディック・ヴェイツ



写真：ディック・ヴェイツ

頭部：暗色

胴体部：小型でずんぐりとした体格。上体の羽毛は暗色で、喉と胸部の羽毛は薄灰色

翼羽部：翼の表側の羽毛は暗色で、内側の羽毛は薄灰色。翼開長33~38cm

足部：脚と趾あしゆびは水色

くちばし：黒色で、短く幅広



採餌と分布

餌：主に小さな甲殻類

分布：採餌域はよく分かっていますが、繁殖地に近い大陸棚域だろうと思われます。

面白い事実

モグリウミツバメはミズナギドリ類の中で最も泳ぎに長けている種で、頻繁に潜って海中を「飛び」、活餌を捕まえます。

最近、生後1年のモグリウミツバメが繁殖しているのが見つかりました。これはアホドリ科とミズナギドリ科を含む全ミズナギドリ目の繁殖記録の中で最も若いものです。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドで繁殖するモグリウミツバメには多くの亜種があります。亜南極モグリウミツバメはオークランド諸島、アンティポディーズ諸島、キャンベル諸島で繁殖します。ミナミモグリウミツバメはフォーヴォー海峡周辺、またスチュワート島本島及び周辺の小島や離れ岩にある多数のコロニーで繁殖します。さらにチャタム諸島の多数のコロニーやスネアーズ諸島でも繁殖します。キタモグリウミツバメはスリーキングス諸島からブラザーズ島まで、北島周辺及びクック海峡の島々や小さな離れ岩で繁殖します。さらにオーストラリアではビクトリア及びタスマニア沖の最大20もの島々で繁殖します。

繁殖期間：8月～2月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニーで営巣し、穴や天然の空洞に巣を作ります。

脅威

海上

- モグリウミツバメの付随的捕獲が報告されることもありますが、これは地上の脅威ほど大きな問題ではありません。

地上

- 繁殖地の島に移入した捕食動物が最大の脅威をもたらしています。モグリウミツバメの幼鳥は生後1年から2年で出生地に戻り、成鳥も1年間のうち8ヶ月から10ヶ月の間巣穴を訪れるため、コロニーが3年から5年以内で消滅する可能性があります。
- 巣穴が浅く簡単に踏み潰されてしまうため、人為的干渉もモグリウミツバメのコロニーに大きな影響を及ぼす可能性があります。スチュワート島周辺でハイロミズナギドリを捕獲する際、誤ってモグリウミツバメの巣穴が壊される可能性があります。
- また、モグリウミツバメはまぶしい光に引き寄せられます。コロニー近くの明るい照明の付いた建物や海上の船にぶつかって行くことが報告されています。

ハネナガミズナギドリ亜種

英名グレイフェイスド・ペトレル (Grey-faced petrel)

Pterodroma macroptera

写真：ロッド・モリス



写真：テリー・グリーン

頭部：茶褐色の頭と灰色の顔**胴体部**：大型で、体全体の羽毛が暗いすすけた茶色**翼羽部**：黒色または茶色**足部**：黒色の脚と趾あしづめ**くちばし**：黒色

採餌と分布

餌：主にイカ。他には魚と甲殻類**分布**：海上では南西太平洋とタスマン海で広く採餌します。この種は外洋性が高く、大陸棚を越えた海域で採餌します。繁殖期に繁殖地近くで目撃されるのを除いては沿海で見られることはほとんどありません。



繁殖

繁殖地：北はスリーキングス諸島から、南はニュープリマス沖のオマタ島までの島、離れ岩、岬で繁殖します。ハウラキ湾及びプレンティアー湾の多数の小島、オークランド以西の島や岬、ギズボーン及びイーストケープ地方の多くの場所で繁殖します。この種はハネナガミズナギドリ亜種で、ハネナガミズナギドリは南大西洋とインド洋の多数の場所で繁殖しています。

繁殖期間：6月～1月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーで営巣します。



脅威

海上

- ・ 時折漁船に付きまとして拾い食いし、ニュージーランドの延縄及びトロール漁業で混獲されています。
- ・ オーストラリアのミナミクマゴロ漁業で混獲されています。

地上

- ・ 移入哺乳動物が最大の脅威です。ニュージーランド北島本土では移入動物の影響のため、未だ残っているコロニーは低木に覆われた斜面や岬にあるものばかりです。
- ・ 訪問者が誤って巣穴を踏み潰すなど、人間による被害も問題です。

面白い事実

長細い翼で何の苦もなく空高く舞う様は目を見張るものがあります。



マダラフルマカモメ (Cape pigeon/petrel)

Daption capense



写真：ロッド・モリス



写真：トウイ・デ・ロイ

頭部： 黒色の首と頭**胴体部：** 中型。下面は主に白色で、顎と喉にいくらかの斑紋があります。上面にははっきりとした白黒の模様があります。**翼羽部：** 翼の内側は主に白色で、黒い縁。翼の表側には明確な白黒の模様。ニュージーランド領海にいる亜種2種は、翼表面の黒い部分の割合で最も容易に見分けることができます。スネアーズマダラフルマカモメ (*D.c. australe*) の翼表面は暗色で白い斑点があり、ミナミマダラフルマカモメ (*D.c. capense*) は翼表面が白色で、黒い斑点があります。**くちばし：** 黒色

採餌と分布

餌： 主にオキアミを食べますが、魚とイカも食べます。漁船や海洋哺乳動物の死体の側で拾い食いすることでも知られています。**分布：** 周極的に分布しますが、夏は南極海域のコロニー近く、特に大陸棚域で採餌します。冬の採餌域は氷縁から東太平洋の熱帯海域まで広域に及び、特にアルゼンチン、南西アフリカ、オーストラリア、ニュージーランド沖が挙げられます。大陸棚域が主な採餌域です。



繁殖

繁殖地：マダラフルマカモメは南極周辺の多数の島々で繁殖します。スネアーズマダラフルマカモメは亜南極圏の島々とチャタム諸島の多くの場所で繁殖します。

繁殖期間：11月～3月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：コロニーに営巣。通常、海からアクセスしやすい崖や急な斜面に簡単な巣を作ります。



脅威

海上

- 常習的に船に付きまとい、時々延縄及びトロール漁業で混獲されます。

地上

- トウゾクカモメが天敵で、卵やヒナを捕食します。

面白い事実

マダラフルマカモメ（訳注：英名Cape pigeonで岬の鳩の意）は餌を捕る時に海面をつつく様と南アフリカの喜望峰（訳注：英名Cape of Good Hope）に生息することから名付けられました。

実際には鳩ではないので、最近は「ケープ・ペトレル」と呼ばれることが多くなっています。



ミナミオナガミズナギドリ (Buller's shearwater)

Puffinus bulleri



頭部：上半分が暗灰色で下半分が白色

胴体部：大型で下面が白色

翼羽部：表側にはっきりとしたM型の模様があり、内側は白色で暗灰色の縁

くちばし：灰色



採餌と分布

餌：魚、イカ、甲殻類

分布：繁殖期には亜熱帯収束線以北の特に大陸棚域で採餌します。この種はタスマン海中央部や西オーストラリア沖でも見られます。冬には北太平洋に渡り、日本やアラスカからさらに東のカリフォルニアまで分布します。毎年ペルー及びチリ領海に渡る個体もいます。

繁殖

繁殖地：唯一プアーナイツ諸島で繁殖します。

繁殖期間：11月～5月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：崖及び低木に覆われた斜面の巣穴または割れ目に営巣します。

脅威

海上

- ・ トロール漁船の背後、また時にはアマチュアの釣り船周辺で拾い食います。
- ・ トロール網、リール及び手釣り糸にかかる可能性があります。
- ・ 定置網にかかる危険性があります。

地上

- ・ 脅威の一つが火事です。夏の間、プアーナイツ諸島は非常に乾燥し、火事で個体数が一時的に減少する可能性があります。
- ・ 人間がコロニーをうろろろすることで巣穴は簡単に崩れてしまいます。この海鳥と絶滅に瀕している他の生物を保護するため、一般のアクセスが厳しく制限されています。

面白い事実

アオランギ島の個体群は野生のブタのため1936年までにほぼ全滅となり、かろうじて約100個の巣が残りました。ブタが駆除されると個体数は急激に増加しました。



アカアシミズナギドリ (Flesh-footed shearwater)

Puffinus carneipes



写真：G. バリー・ベイカー



写真：マイク・ダブル、SOSSA

頭部：黒色または茶褐色

胴体部：小型のミズナギドリで、黒色または茶褐色

翼羽部：黒色または茶褐色

足部：脚と趾はピンク。クロミズナギドリと似ていますが、明確な違いの一つは趾で、クロミズナギドリのは黒色ですが、アカアシミズナギドリのは際立ったピンクです。

くちばし：薄桃色で、暗色の先端



採餌と分布

餌：魚、イカ、甲殻類

分布：夏は亜熱帯収束線以北の大陸棚域で採餌。ニュージーランドに生息する個体は5月から9月まで北太平洋に渡ります。

面白い事実

アカアシミズナギドリの鳴き声は一連の甲高いうめき声で、喧嘩しているネコの鳴き声になぞらえられます。

この海鳥は肝臓をガツガツと食べ尽くしてしまうというのに、サメの肝油を少し海面にまいておくと漁船に全然寄ってこなくなります。

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、ヘンアンドチキン諸島、マーキュリー諸島、オヒナウ島、カレワ島、カウワハイア島、モトゥマハンガ島、ミドルトリオ島、ティティ島など、北島及びクック海峡周辺の島々で繁殖します。ニュージーランド以外では、ロードハウ島、南オーストラリア、西オーストラリア、インド洋のいくつかの島でも繁殖します。

繁殖期間：12月～5月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーに営巣します。

脅威

海上

- 東オーストラリア沖でマグロ延縄漁船に混獲される危険性があり、4月には頻繁に雄の幼鳥が、9月には渡りから戻ってきた成鳥が掛かっています。
- ニュージーランドにおける延縄漁業での混獲が報告されています。
- 遠洋マグロ漁業で危険にさらされる可能性があります。
- この種の海鳥は常習的にトロール漁船を追いかけて拾い食いするため、トロール網や引き網が危険です。
- アマチュア釣り師のリール及び手釣り糸に掛かります。

地上

- アカアシミズナギドリの一部のコロニーでは哺乳動物が潜在的脅威です。ニュージーランドの最大規模のコロニーはネズミ、ドブネズミ、イタチのいない島にあります。
- 他種の海鳥との巣穴の取り合いが繁殖成功率に影響を与えています。
- 訪問者が誤って巣穴を踏み潰す可能性があります。

ハシボソミズナギドリ (Short-tailed shearwater)

Puffinus tenuirostris



写真：トロイ・ガイ、USフィッシュ&ワイルドライフ・サービス



写真：トロイ・ガイ、USフィッシュ&ワイルドライフ・サービス

頭部：茶褐色

胴体部：茶褐色で、胸部はより淡い色。ハイイロミズナギドリに似ていますが、ハシボソミズナギドリは見た目がより丸々しています。

翼羽部：翼の表側は茶褐色で、内側はより薄い色。翼の内側はハイイロミズナギドリより濃い色です。

足部：脚と趾は外側が暗色で、内側は藤桃色

くちばし：暗色で細く、ハイイロミズナギドリのものより短い



採餌と分布

餌：オキアミ、イカ、魚

分布：夏と秋はオーストラリアの南から南インド洋で採餌。冬はほとんどが北太平洋のアリューシャン列島及びカムチャツカ半島沖へと渡ります。

繁殖

繁殖地：ハシボソミズナギドリのコロニーはオーストラリア沖の多数の島々に存在します。ニュージーランド領海を訪れますが、繁殖は行いません。

繁殖期間：11月～4月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーで営巣します。

脅威

海上

- ・ ハシボソミズナギドリは北太平洋の刺網漁業で頻繁に混獲されます。
- ・ ニュージーランドのトロール漁業でも混獲が報告されています。

地上

- ・ ハシボソミズナギドリのコロニーでは生息環境の破壊が主な脅威です。
- ・ ブタ、ヒツジ、ウシが巣穴を踏み潰し、コロニーが完全に破壊されたことがあります。

- ・ 野生のネコと放し飼いのイヌがヒナを殺します。
- ・ 人間がコロニーをうろうろすると巣穴は簡単に潰れてしまいます。またRV車によって浸食した土地は巣穴作りには適しません。
- ・ ハシボソミズナギドリの捕りすぎが個体数の減少に繋がる恐れがあります。

面白い事実

ハシボソミズナギドリの総個体数は約2300万羽といわれ、この数は安定、またはおそらく増加しています。

これはオーストラリア固有の鳥の中で、商業目的で捕獲される数少ない種の一つです。オーストラリアで一般的にマトンバードとして知られ、ニュージーランドのハイイロミズナギドリの近種です。

毎年恒例の渡りでニュージーランド領海を通過します。

ハイイロミズナギドリ (Sooty shearwater) - ティティまたはマトンバード

Puffinus griseus



写真：ロッド・モリス



写真：ティック・ウェイッチ

頭部：チョコレート色

胴体部：中型のミズナギドリで、濃いチョコレート色

翼羽部：翼の表側はチョコレート色で、内側は銀色がかった白色。翼開長95cm～110cm

足部：脚と趾あしゆびは外側が暗色で、内側が薄い藤桃色

くちばし：暗色で細く、ハシボソミズナギドリのものより長い



採餌と分布

餌：魚とイカ

分布：ハイイロミズナギドリは世界で最も広く分布している海鳥の一種です。ニュージーランドからの個体が南太平洋とタスマン海で採餌します。南半球の冬に北太平洋に渡り、中央及び東太平洋全域に分布し、中には北極海域に達するものもいます。

繁殖

繁殖地：ハイイロミズナギドリは、北はスリーキングス諸島から南はキャンベル諸島まで、ニュージーランド本土周辺の多くの島々で繁殖します。例えば、スチュワート島、スネアーズ諸島、オークランド諸島、キャンベル諸島、アンティポディーズ諸島、チャタム諸島です。南島本土沿岸の岬に生息しているものもいくつかあります。ニュージーランド以外では、オーストラリア沖の少なくとも17の島、チリ沖の島々、フォークランド諸島などで繁殖しています。

繁殖期間：11月～5月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：巣穴を掘り、コロニーで営巣します。

脅威

海上

- ハイイロミズナギドリはニュージーランド経済水域の漁業中に最も頻繁に殺され、検屍に送られてくる海鳥の一種です。この海鳥はホキ、イカ、クルマエビ漁に用いられるトロール網や引き網に掛かって死んでいます。ニュージーランドの延縄漁業でも少数のハイイロミズナギドリが混獲されています。また、アマチュアの釣り師が使うリールや手釣り糸、また一部の場所では仕掛け網に掛かることもあります。
- ニュージーランド以外では、冬になって北太平洋に渡った際、延縄及び刺網漁業で殺されています。

地上

- 地上での最大の脅威は移入哺乳動物です。

- 一部の島でウシ、ヒツジ、ヤギが巣穴を破壊します。ウサギが巣穴を奪い取ろうと営巣中の海鳥を妨害する島もいくつかあります。
- 他の海鳥（例えばハネナガミズナギドリやアカアシミズナギドリ）との巣穴の取り合いが若干あるかもしれませんが。
- 一部のコロニーではコバネクイナが卵やヒナを捕食します。
- 訪問者が誤って巣穴を踏み潰してしまう可能性があります。
- スチュワート島周辺の昔ながらの狩場において、ラキウラ・マオリ族の子孫が商業目的の捕獲を行っています。他の場所で時折行われる小規模の不法捕獲も報告されています。

オナガミズナギドリ (Wedge-tailed shearwater)

Puffinus pacificus



写真：トニー・パリゼー、SOSSA提供



写真：トニー・パリゼー、SOSSA提供

頭部：暗色

胴体部：大型で、暗色の羽毛が体全体とV字型の尾羽を覆う。

翼羽部：表側と内側共に暗色

足部：桃色

くちばし：灰色



採餌と分布

餌：魚、イカ、甲殻類

分布：ニュージーランドの個体は6月から10月中旬まで東太平洋に渡ると考えられています。

繁殖

繁殖地：ケルマデク諸島、オーストラリア沿岸沖の島々、インド洋及び太平洋の熱帯及び亜熱帯の島々など、多数の場所で繁殖します。

繁殖期間：南半球の個体は毎年9月に繁殖を始めますが、ケルマデク諸島の個体は12月まで産卵しません。

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：大規模なコロニーを形成することが多く、巣穴に営巣します。

脅威

海上

- 特に非繁殖期に世界各地の漁業により脅威にさらされていることを示す証拠がいくらかあります。

地上

- ドブネズミと野生のネコが最大の脅威です。最近ラウル島からいずれも駆除されました。
- ラウル島とカーティス島の火山活動もコロニーに潜在的脅威を与えています。
- 訪問者が誤って巣穴を踏み潰す可能性があります。

面白い事実

ニュージーランドとノーフォーク島のコロニーで繁殖している個体は他の場所に生息する同種の個体より大型です。

この種の羽毛には幅広い格差があります。ハワイやインド洋のコロニーで繁殖するものの下面は白色。ケルマデク諸島、ノーフォーク島、ロードハウ島、その他のオーストラリア沿岸沖の島々の個体はみな暗色です。

ヒメクジラドリ (Fairy prion)

Pachyptila turtur



写真：テイウ・クローチレー



写真：テイウ・クローチレー

頭部：頭頂部は青灰色。目の周りとかちばしの下が白色

胴体部：下面は白色。背部は青灰色

翼羽部：翼の表側が青灰色で、広げた翼いっぱいには黒色のM字模様。内側は白色。尾羽の先端部は幅広で黒色

足部：濃い青灰色

くちばし：短い青色のくちばし(長さ約22mm、幅11mm)



採餌と分布

餌：オキアミ

分布：南半球全域の外洋域及び沿岸

繁殖

繁殖地：ニュージーランドでは、ブアーナイツ諸島以南の沖合いの島々、さらにチャタム諸島、スネアーズ諸島、アンティポディーズ諸島のコロニーで繁殖します。ニュージーランド以外では、オーストラリアのビクトリアやタスマニア沖の30の島々や岩、さらにマクオーリー島、ハード島、ケルゲレン諸島、セントポール島、クローゼー諸島、プリンスエドワード諸島、マリオン島、サウスジョージア島、フォークランド諸島で繁殖します。

繁殖期間：10月～2月

産卵の頻度：毎年

卵数：1

営巣：大規模のコロニーを形成することが多く、巣穴で営巣します。

脅威

海上

- ヒメクジラドリは船にあまり付きまといませんが、夜間停泊中の船のライトに引き寄せられることがあります。

地上

- ヒメクジラドリにとって移入捕食動物が最大の脅威です。ニュージーランドに残っているコロニーの全てはげっ歯動物のいない島ばかりです。

- コバネクイナがオープン湾とビッグソランダー諸島で繁殖している個体群に影響を与えています。
- 放牧中の家畜が巣穴を潰し、ヒメクジラドリの個体数に影響を与える可能性があります。
- コロニーへの訪問者が誤って巣穴を踏み潰してしまう可能性があります。
- 多くのコロニーは草地にあるため、繁殖期の火事が脅威となります。

面白い事実

ヒメクジラドリはクジラドリの最小種です。またこの海鳥はニュージーランドのみズナギドリで最も個体数の多い種の一つです。調査によると世界の総個体数の半分がニュージーランドにいます。

その他の参考文献

海鳥に関する優れた発行物やインターネット上の文献が多数ありますので、さらに詳しく学ぶことができます。興味のある方は海鳥に関する文献について環境保全省まで問い合わせください。Department of Conservation's Marine Conservation Services section

電話 (04) 471 0726

Eメール csp@doc.govt.nz

参考文献：「**Identification of seabirds of the Southern Ocean: a guide for scientific observers aboard fishing vessels. (南大洋の海鳥の識別：漁船上船する科学観察者のためのガイド)**」Derek Onley and Sandy Bartle, Te Papa Press in association with the Commission for the Convention on the Conservation of Antarctic Marine Living Resources (デレック・オンレー、サンディー・バートル著、テ・パパ・プレス、南極海洋生物資源保存管理委員会提携) 初版1999年、第2版2001年、第3版2006年

「**Field Guide to New Zealand Seabirds (ニュージーランド海鳥フィールドガイド)**」Brian Parkinson, New Holland Publishers (ブライアン・パーキンソン、ニューホーランド・パブリッシャーズ) 初版2000年

「**Action Plan for Seabird Conservation in New Zealand Part A: Threatened Seabirds (ニュージーランドにおける海鳥保護の行動計画Part A：絶滅の危機に瀕している海鳥)**」Graeme

A. Taylor, Department of Conservation, Threatened Species Occasional Publication No. 16 (グレイムAテイラー、環境保全省、絶滅の危機に瀕している生物種に関する臨時発行物No.16) 初版2000年

「**Action Plan for Seabird Conservation in New Zealand Part B: Non-Threatened Seabirds. (ニュージーランドにおける海鳥保護の行動計画Part B：絶滅の危機に瀕していない海鳥)**」Graeme A. Taylor, Department of Conservation, Threatened Species Occasional Publication No. 17 (グレイムAテイラー、環境保全省、絶滅の危機に瀕している生物種に関する臨時発行物No.17) 初版2000年

2007年 IUCN絶滅危惧種レッドリスト
IUCN (国際自然保護連合)
www.iucnredlist.org

環境保全省のジョアンナ・ピエール、ステファニー・ロウ、グレイム・テイラー、ピーター・モアの査読及びコメントに感謝します。

編集：シェリー・ファー・ビズウェル

デザイン：リサ・ペイトン、形態環境コミュニケーション

写真提供：記述のあるものを除き環境保全省

2008年発行

環境保全省



Department of Conservation
Te Papa Atawhai

